

【様式2】B案

学士教育プログラム学習教育目標とURGCC学習教育目標との対応関係表

学士教育プログラム名称

ヨーロッパ文化 学士教育プログラム

	URGCC学習教育目標	自律性	社会性	地域・国際性	コミュニケーション・スキル	情報リテラシー	問題解決力	専門性	
	URGCC学習教育目標	自分自身が掲げる目標の達成に向けて、自律的に学習し行動することができる。	市民として社会の規範やルールを理解し、倫理性を身につけ、多様な人々と協調・協働して行動できる。	地域の歴史と自然に学び、世界の平和及び人類と自然の共生に貢献することができる。	言語(日本語と外国語)とシンボルを用いてコミュニケーションを行い、自分の考えや意思を明確に表現することができる。	幅広い分野の情報や知識を多様なチャネルから収集し、適切に理解した上で取捨選択し、活用することができる。	批判的・論理的に思考するとともに、これまでに獲得した知識や経験等を総合して問題を解決することができる。	専攻する学問分野における思考法、スキル、知識等を体系的に身につけ、活用することができる。	
学士教育プログラム学習教育目標	コミュニケーション能力:専攻の対象言語(ドイツ語・フランス語・スペイン語のうちから一言語選択)による高度な運用能力を身に付け、コミュニケーション能力を養成する。		○	○	○	○			
	(URGCC学習教育目標と関連があるとして、○印を付けた理由) 対象となる言語における高い語学力を養成し、そのコミュニケーション能力をもって一方で社会性と地域・国際性を身に付け、また一方で多様なソースの中からの確かな情報を汲み取り、論理的に処理・発信できるような能力の養成を目指しているため。								
	探究心と論理性:各言語活動に関わる文化事象のなかから自分なりに研究課題を見つけ、それを論理的に解決し表現する能力を養成する。	○					○	○	○
	(URGCC学習教育目標と関連があるとして、○印を付けた理由) 各言語文化圏における専門知識を身に付け、その中から批判的思考力によって問題を設定し、必要な情報を論理的に統括しながら計画的に問題解決する能力を養うことを目指しているため。								
	専門的知識:各言語圏の文学・文化・歴史・民俗等に関する専門知識およびヨーロッパ言語文化圏・EU社会全体の横断的な理解を深める。			○					○
	(URGCC学習教育目標と関連があるとして、○印を付けた理由) 各言語文化圏を多角的な視点で理解し、またヨーロッパ・EUの文化や社会を総合的に理解した上で、特定の研究課題に取り組む能力の獲得を目指しているため。								
異文化理解:高度な異文化理解を実現し、地域社会および国際社会でその能力を発揮できる人材を育てる。		○	○	○					
(URGCC学習教育目標と関連があるとして、○印を付けた理由) 高度な語学運用能力と柔軟な異文化理解の精神を身につけ、これらを地域社会あるいは国際社会に還元できる能力の養成を目指しているため。									
(URGCC学習教育目標と関連があるとして、○印を付けた理由)									
(URGCC学習教育目標と関連があるとして、○印を付けた理由)									